

文書番号	標題	年代	形態	数量	内容	備考
1	[池田由勝知行宛行状]	元禄10年6月15日	横折紙	1通	玄蕃由勝(花押)→平山郷右衛門 備前国児島郡林村・備中国窪屋郡福島村において250石の知行を与えたもの。	包紙あり。上書「平山郷右衛門とのへ」
2	[池田政孝扶持米宛行状]	寛政3年11月	竖切紙	1通	(「政孝」印)→平山権五郎 10人扶持の給米を与えたもの。	包紙あり。上書「平山権五郎」
3	[池田政純知行宛行状]	享保11年1月11日	横折紙	1通	政純(花押)→平山佐七郎 備前国児島郡林村・備中国窪屋郡福島村において250石の知行を与えたもの。	包紙あり。上書「平山佐七郎とのへ」
4	[池田政和知行宛行状]	慶応1年10月5日	横折紙	1通	政和(花押)→平山郷右衛門 備前国児島郡林村・同郡尾原村・備中国窪屋郡福島村において230石の知行を与えたもの。	包紙あり。上書「平山郷右衛門とのへ」
5	[池田政徳知行宛行状]	天保2年9月5日	横折紙	1通	政徳(花押)→平山秀五郎 備前国児島郡尾原村・同郡林村において200石の知行を与えたもの。	包紙あり。上書「平山秀五郎とのへ」
6	[池田隆右知行宛行状]	享保6年1月5日	横折紙	1通	豊次郎隆右(花押)→平山佐七郎 備前国児島郡林村・備中国窪屋郡福島村において250石の知行として与えたもの。	包紙あり。上書「平山佐七郎とのへ」。「隆右」は池田政純の初名。
7	[平山奎之丞宛某書状]	3月10日	横継紙	1通	今晚の茶事について。	端裏上書「用事 平山奎之丞江」
8	口達之覚	1月	横切紙	1通	平山権五郎。これまででもらっていた御至親銀を召し上げられた件について。	包紙あり。上書「覚書 一通」。
9	[平山権五郎宛池田政徳書状]	1月17日	横継紙	1通	出雲政徳(花押)→平山権五郎	包紙あり。上書「平山権五郎江用向 池出雲」
10	覚記	明治15年4月	横継紙	1通	徳山家との土地境界争いの顛末を記したもの。	No.12と関連。
11	達之覚	1月	横継紙	1通	(池田政和)→中老「御国之御法・家法」を守って緩急なく勤めること、政治向のことは家老たちと相談すること等を指示したもの。	包紙あり。上書「政和公御折紙 明治二巳年正月六日頂戴 平山権五郎」
12	双方為取換議定書	明治15年2月2日	掛紙・竖	1部	徳山三郎・平山郷夫・山本林平。徳山・平山両家の所有宅地の境界錯雑紛議に関する和解議定書。	No.10と関連。
13	[馬具書付]		横継紙	1通	鞍籠・鞍覆・びろうど駄覆などの馬具を列記したもの。朱点および「道中用」等の朱筆注記あり。	端裏に「御筆」とある。
14	安政四年巳二月 備中山南福島村御百姓書上帳	安政4年2月	美・竖	1部	福島村名主市右衛門・同金吉→平山郷右衛門 元吉(歳30)ほか家数2軒・人数8人分の百姓について報告したもの。	
15	覚	(天保7)1月11日	横切紙	1通	(不明)→平山権五郎 権五郎病身につき、政事役再勤を免じ隠居を申し付けたもの。	池田政徳の書状と推定される。
16	明治四年辛未年三月六日 家屋敷払上帳	明治4年3月6日	美・竖	1冊	平山五郎→岩田貞吉・吉田勝造 座敷・次之間・応対之間・納戸・物置・土蔵などの唐紙・障子といった部材を書き上げた目録。	家屋敷払上・屋敷目録提出について記した付紙が折り込まれている。
17	[平山権五郎ほか宛天城池田家当主書状一括]			1包4通		17-1~4まで包紙一括。包紙上書「明治八年五月三十一日御布告_付当所会議所へ家禄証差出口口_而此書物受取追而資本金受取刻〇〇右家禄証〇受〇戻し_相成趣也」
17-1	覚	(文政7)1月11日	横切紙	1通	(不明)→平山権五郎 滞りなく出精勤務し、作廻方の勤めぶりも満足ゆくものだったので、70石の知行を与える旨、伝えたもの。	包紙あり。上書「覚書」。池田政徳の書状と推定される。
17-2	覚	(文政2)10月13日	横切紙	1通	(不明)→平山権五郎 権五郎を中老に任命し、役知として70石を加増の上、天城詰めを申し付けたもの。	包紙あり。上書「書附」。池田政徳の書状と推定される。
17-3	覚	(文政6)3月2日	横切紙	1通	(不明)→平山権五郎 権五郎を当地に呼び出し、作廻方について借財が莫大になった件について。	包紙あり。上書「書附」。池田政徳の書状と推定される。
17-4	覚	(天保2)卯年9月8日	横切紙	1通	(不明)→平山万松 万松が隠居の身ながら再勤申付に応じ、年若い家老たちと相談して政事向のことを万事勤めたことに対し、これまでの扶持に加えて毎年礼銀20枚を給与する旨伝えたもの。	包紙あり。上書「書付 一」。池田政徳の書状と推定される。
18	[池田由成知行宛行状]	明暦2年10月15日	横折紙	1通	出羽由成(花押)→松原四郎右衛門とのへ 備前国児島郡林村の内にて150石の知行を与えたもの。	
19	[池田由勝知行宛行状]	元禄10年6月15日	横折紙	1通	玄蕃由勝(花押)→松原弥右衛門 備前国児島郡林村の内にて150石与えたもの。	
20	[池田由孝知行宛行状]	元禄3年1月28日	横折紙	1通	主水由孝(花押)→松原弥右衛門 備前国児島郡林村の内にて150石与えたもの。	
21	[池田成方知行宛行状]	延宝5年1月15日	横折紙	1通	主水成方(花押)→松原四郎右衛門 備前国児島郡林村の内にて150石与えたもの。	「成方」は池田由孝の初名。
22	[米村市之丞書状]	7月15日	横継紙	1通	米村市之丞口(花押)→(宛名欠) 中村角兵衛・弥右衛門・鈴木半太らの仕官状況などにつき情報をやり取りし、自分や彼らの身上が成り立つよう才覚を依頼したものか。松平下総殿(忠明か)の名がみえる。	紙継目分解、裏打ちが施されている。87-1によると、米村市之丞は大野治長の旧臣。
23	建具目録	卯年4月	横継紙	1通	山脇無事之介→露無久次郎・檜木銀右衛門 座敷・次の間など建物ごとに板天井・障子・唐紙・畳などの建具とその数量を書き上げたもの。	
24	[平山権五郎宛苔口順正・高原義徳連署書状]	7月19日	横継紙	1通	苔口多門右衛門順正(花押)・高原善之丞義徳(花押)→平権五郎「結構調法之御品」を贈られたことへの礼と、「御振替金之義」について承知したので「権六郎様」(平山権五郎の子)を出府させ源右衛門(丸川氏)と話し合うよう伝えたもの。	包紙あり。上書「平権五郎様 高原善之丞・苔口多門右衛門」。この書状における平山権五郎は、文中に登場する権六郎の父・定雄と考えられる。
25	[包紙]			1枚		包紙のみ。上書「御筆類」

26	[石部岡山県参事宛平山郷夫家禄奉還願]	明治8年3月28日	半・竪	1部	第三拾六区四番小区児島郡天城村三拾五番屋敷居住士族平山郷夫・副戸長安田竹太・戸長鶴崎忠三郎・副区長日笠武一郎→石部岡山県参事 禄高18石の内10石を奉還する旨、願い出たもの。	付紙を折込添付。申請を聞き届け、資本金は追って下げ渡す旨の岡山県裁可の奥書あり。罫紙使用、綴紐欠損。
27	[包紙]			1枚		包紙のみ。
28	[屋敷払上関係覚書]	(明治4)辛未年3月6日	横切紙	1通	引越しにともない建具・畳を一切取り除いたことなどを記す。	No.16に関連。
29	[平山郷右衛門宛某書下]	5月17日	横継紙	1通	この間の役替日限について。	
30	[平山奎之丞宛某書状]	4月8日	横継紙	1通	「江戸馬之儀」につき意見を求めたもの。	端裏上書「用事 平山奎之丞江」
31	[平山権五郎宛 池田政徳書状]	11月25日	横継紙	1通	高原右門へ内談の金子、および七月分銀札御払帳について。	端裏上書「平山権五郎江 池出雲」
32	[平山権五郎宛 池田政徳書状]	7月27日	横切紙	1通	銀請払帳・証文を来春まで権五郎に預け置く旨伝えたもの。	端裏上書「平山権五郎江 出雲」
33	[平山権五郎宛 池田政徳書状]	閏1月27日	横切紙	1通	銀札受払帳を披見の上、返却する旨伝えたもの。	端裏上書「平山権五郎江 雲州」
34	[平山権五郎宛 池田政徳書状包紙]			1枚		包紙のみ。上書「平山権五郎江 雲州」
35	[平山奎之丞宛某書状]	4月18日	横継紙	1通	腹込(妊娠)の女馬の出産など、馬の飼育と交配等について意見交換したものの。	端裏上書「用事 平山奎之丞江」
36	[平山郷右衛門宛某書状]	7月21日	横切紙	1通	別紙指扣書・書上の趣を承知したことを伝え、先例に従って取り計らうよう指示したもの。	端裏上書「書下 郷右衛門江」
37	[平山権五郎宛 池田政徳書状]	12月20日	横継紙	1通	昨年借用の町銀を皆済した件について。	端裏上書「平山権五郎江 雲州」
38	[平山権五郎宛 池田政徳書状]	12月27日	横継紙	1通	紙屋利兵衛へ貸付の銀子元利返納の件について。	端裏上書「平山権五郎江 池出雲」
39	[平山奎之丞宛某書状]	4月9日	横継紙	1通	金花山の馬・円治の乗馬を見物したいとのことについて。	端裏上書「用事 平山奎之丞江」
40	[平山権五郎宛 池田政徳書状]	6月12日	横切紙	1通	書状の下書を認めたので添削するよう指示したもの。	端裏上書「平山権五郎江 出雲」
41	[惠銀・会釈銀割合案]		横継紙	1枚	家老・物頭・徒目付など身分ごとに惠銀・会釈銀の支給額を示し、その割合の是非につき問うたもの。	
42	[客馬之節相居候人別馬書付]		横継紙	1枚	池田要人の1疋以下、「此方之馬」も含めた馬数34疋、客数25人の目録。	
43	[平山奎之丞宛某書状]	2月15日	横継紙	1枚	23日までに内輪の祝儀を済ませ、27日ごろに出立(発足)するのがよい、との考えを伝えたもの。	端裏上書「用事 平山奎之丞江」
44	[松原四郎右衛門・布施三益宛 池田由孝書状]	11日	横切紙	1通	栄寿院殿病氣につき、その様態などを尋ねたもの。赤穂の松寿院(大石内蔵助の母熊子)来訪について記述あり。	端裏上書「松原四郎右衛門殿・布施三益殿 主水」 本文日下に花押あり。栄寿院は由孝の母。
45	元治二丑年正月より 軍用銀請払并貸附留帳	元治2年1月～3年11月	半・横長	1冊	平山氏。	付紙1枚がはがれた状態で貼付位置に挟み込んである。
46	[金子目録]	年月日未詳	竪紙		「金二百疋」とある。	
47	[平山郷夫宛岡山県聴訟課達一括]			1包(2通)		47-1～2一括封筒入り。封筒上書「平山郷夫殿 聴訟課」
47-1	[平山郷夫宛岡山県聴訟課達]	明治8年7月20日	竪折紙	1通	聴訟課→二等遷卒平山郷夫 21日より除服するよう命じたもの。	罫紙。柱書「岡山県」
47-2	[平山郷夫宛岡山県聴訟課達]	年未詳7月20日	竪折紙	1通	聴訟課→平山郷夫 「御用之儀」があるので22日に出頭するよう命じたもの。	罫紙。柱書「岡山県」
48	[蔵米請取通一括]			1包(2冊)		48-1～2封筒入り一括。封筒上書「午閏十月認之分藩廩米請取通入 本平山氏」。
48-1	辛未十月 御蔵米請取通	(明治4)年10月	美・横半	1冊	天城平山郷夫 食禄米56石8升の請取通帳。	
48-2	庚午閏十月 藩廩米請取通	明治3年閏10月	美・横半	1冊	天城平山五郎 食禄米・食禄大豆の請取通帳。	藩廩の印章が捺されていた箇所が切除されている。
49	[池田政孝扶持米宛行状]	文化5年11月	竪切紙	1通	(「政孝」印)→平山八十治 2人扶持の扶持米を給与したもの。	包紙あり。上書「平山八十治」
50	[某書状]	(明治3)2月11日	横切紙	1通	願いを聞き届け、悴の郷夫へ諸事名代勤務を命じたもの。	文脈から、岡山藩が平山郷夫の父定雄に宛てて出したものと推定。
51	書下	年未詳11月14日	横継紙	1通	「一、壱両当分入用遣ス」とある。詳細未詳。	
52	弘化四未年十二月 用意金元請帳	弘化4年12月 安政1年11月1日	半・横長	1冊	平山氏。2季に1歩づつの銀と、御惠銀・浮銀などの臨時収入・余剰銀を貯蓄したもの。	包紙あり。「金壱両拾六歩分也 午十二月口済」
53	勤書	(明治4)辛未年5月	横継紙	1通	平山五郎定雄(花押)→伊庭番男 天保2年～明治3年までの勤務履歴を記した奉公書。	包紙あり。上書「勤書 平山五郎」。紙継目がはがれて所々分解している。
54	断髪御願	明治12年12月8日	罫紙・竪	1部	岡山県備前国児島郡天城村三拾五番地居住士族平山郷夫・戸長井上信一郎→岡山県令高崎五六 母琴の断髪につき、医師の診断書を添えて願い出たもの。	明治12年12月17日付断髪許可之証(岡山県→備前国児島郡天城村士族平山郷夫母琴)および同日付岡山県令高崎五六裁可の付紙を合綴。
55	[金銭覚・奉公書ほか書類一括]			1括り(1冊 2通2枚)		55-1～5折り込み一括。まとまりを維持するため新たに紐で括った。
55-1	覚	年未詳11月8日	横切紙	1通	「一、金貳歩 勝之介上下着買物二取」とある。	
55-2	[包紙]	年月日未詳		1枚		(上書)「御折紙箱入之分 金六両三歩除銀札四匁七分 午七月改 安政七申年右金口之口出切払底也」
55-3	御奉公之品書上	明治3年12月29日	美・竪	1冊	病中平山五郎・名代勤同郷夫定成(花押)→伊庭番男・水野口雄 明治3年2月3日～12月15日の勤務状況を書き上げた奉公書の控(または案文)。	
55-4	覚	年未詳12月朔日	横切紙	1通	権六郎より預り「折紙入」にしていた金2歩を12月分小遣として取替えた旨、記載あり。	包紙あり。上書「口口権六郎之内此道具分預り置候事 金貳歩 安政四己年十二月廿五日」、包紙内側に「金貳歩」とある。
55-5	覚	年月日未詳	横折紙	1通	祈禱料・かや代・当時借用など金銭の出入の明細を記したもの。	
56	[包紙]	年月日未詳		1枚		包紙のみ。上書「金五両貳歩又壱両壱歩 此口大口八十四匁口 四百六十式匁口」

57	〔平山郷右衛門宛某書状〕	年未詳4月7日	横切紙	1通	「只今書上之儀」につき、今月下旬26、7日ごろを目途に申し出てはどうかと意見したもの。	端裏上書「書下 郷右衛門江」
58	〔平山李之丞宛某書状〕	年未詳4月25日	横継紙	1通	送られてきた炭斗などの出来がよかったので、唐物写し掛花生1つを誂えて送るよう伝達を指示したもの。	端裏上書「用事書下 平山李之丞江」
59	〔訓戒〕	年月日未詳	横切紙	1枚	家老の徳山三兼と不仲で、内意を用いず等閑にし、不届き・心得違いのことがあったとして、ある人の政事役を罷免し、以後態度を改め職分大切に慎むよう訓告したもの。	
60	〔平山権五郎宛池田政徳書状〕	年未詳7月24日	横切紙	1通	池田邸作廻向の件について。	端裏上書「平山権五郎江用事 出雲」
61	〔平山権五郎宛池田政徳書状〕	年未詳12月11日	横切紙	1通	紙屋利兵衛に預け置いていた銀札の元利払い上げについて。	端裏上書「平山権五郎江 雲州」
62	〔平山権五郎宛池田政徳書状〕	年未詳4月3日	横切紙	1通	児島得三郎の件につき面談のこと。	端裏上書「平山権五郎江 池出雲」
63	〔某書状〕	年未詳11月14日	横継紙	1通	八部口左衛門が一人で久々に昼夜詰め切っている件について。	端裏上書「用事用人共々」とある。
64	〔平山李之丞宛池田政徳書状〕	年未詳2月12日	横切紙	1通	今晚の見せ馬について。	端裏上書「出雲用事 平山李之丞江」
65	〔平山李之丞宛某書状〕	年未詳4月28日	横継紙	1通	留守中の子供両人の件について。	端裏上書「用向 平山李之丞江」
66	〔平山権五郎宛池田政徳書状〕	年未詳9月27日	横継紙	1通	先だってより心配されていた町方塩物問屋不居合の一条について。	端裏上書「平山権五郎江 池出雲 内用事」
67	〔平山権五郎宛池田政徳書状〕	年未詳11月16日	横切紙	1通	京都借銀に関する平山李之丞よりの注進状について承知したこと等を伝える。	端裏上書「平山権五郎江 池出雲」
68	〔平山李之丞宛某書状〕	年未詳2月8日	横継紙	1通	土倉左膳実家因州池田日向方家縁云々とある。	端裏上書「用向 平山李之丞江」
69	〔氏名未詳消息〕	(天保3年カ)	横継紙	1通	池田政徳の子(当時10歳)と芸州浅野甲斐守(忠敬)の息女との縁談について。	(端裏書)「あらし口口筆 披見」
70	〔岡山県令賞状ほか一括〕			1纏め(2通)		70-1の中に70-2が折り込まれている。
70-1	〔平山郷夫宛岡山県賞状〕	明治7年12月	横切紙	1通	(岡山県令印)→平山郷夫 台湾をめぐる日本と清との間に発生した際は従軍するとの申し出を奇特とし、その愛国心を賞したもの。	
70-2	〔大蛇の鱗についての書付〕	明治10年3月9日	横切紙	1通	日比村副戸長の与田作太郎から大蛇の鱗一片を譲り受けた経緯を記す。	大蛇の鱗の実物(143)は、文書を収納していたカバンの内ポケットに納められていた。
71	覚(借金につき)	年未詳12月12日	横切紙	1通	出訴当時借金の覚。	
72	〔包紙〕	年月日未詳		1枚		(上書)「口上 平山五郎」。
73	〔先祖戒名書付一括〕			1纏め(3枚)		73-1～3巻き込み一括。
73-1	〔平山・松原両家先祖戒名没年書付〕	(明治13)年	横切紙	1枚	唯乗院ほか9名の戒名・没年月日・享年と、大叔母2名の当時の年令を記す。	中に73-2・73-3を巻き込み。
73-2	〔平山家先祖戒名書付〕	年月日未詳	横切紙	1枚	唯乗院妙栄信女ほか7名の戒名を記す。	73-1の中に巻き込み。
73-3	〔離生院・智浄院年忌書付〕	(明治17カ)年	横切紙	1枚	文政8年が離生院にとって七回忌に、智浄院にとって十三回忌に当たる旨、記したもの。	73-1の中に巻き込み。
74	〔某書状〕	(江戸初期)	横継紙	1通	とある座敷において、書状の記主・八太夫・吉田二郎右衛門(牢人)が大勢の面前で何者かを討ち果たした事件につき、詳述したもの。	文中に「松平伊豆殿(信綱)がみえ、紙質・文体より江戸初期のものと思われる。劣化大、2つに分解。
75	〔包紙〕	年月日未詳		1枚		(上書)「議定証」。
76	〔武家屋敷敷地建物平面見取図〕	年月日未詳		1舗	平山家が明治初年まで居住していた屋敷の見取図。間取などを表現。	貼り合わせ箇所ほとんどがはがれ、分解している。
77	〔平山藤兵衛宛徳山左兵衛ほか書状一括〕			1巻(4通)		77-1～4は裏折紙に貼り継がれ木一巻に仕立てられている。
77-1	〔平山藤兵衛宛徳山左兵衛書状〕	年未詳10月7日	横継紙	1通	徳山左兵衛三成(花押)→平山藤兵衛「其元」滞留中の平山藤兵衛と「出羽守」(池田由成)の面会につきやり取りしたもの。由成の「肝煎」による藤兵衛の池田家士官について談合したものか。	中ほどに破損あり。
77-2	〔平山藤兵衛宛徳山左兵衛書状〕	年未詳10月15日	横継紙	1通	徳左兵衛三成(花押)→平山藤兵衛「我等娘」をそちらへ遣わす件につき用意を調べていることを伝え、扶持方以下のことにつき気兼ねなく相談するよう書き送ったもの。	前欠。
77-3	〔平山藤兵衛宛徳山左兵衛書状〕	年未詳10月18日	横継紙	1通	徳山左兵衛三成(花押)→平山藤兵衛 下津井にて「出羽」(池田由成)と平山藤兵衛が面会する件につき、やり取りしたもの。由成と心安く物語できる町人がいるので、その人を介して由成に意を伝えるよう助言している。	前欠カ。
77-4	〔某書状断簡〕	年月日未詳	横切紙	1通	差出・宛名欠。下津井よりの書状に対する返事。九州へ行く件について詳しく承りたい、貴様のことは岡山・天城で話題になっている、と伝えたもの。	後欠。
78	〔白紙〕	年月日未詳	横切紙	1枚		
79	山根無事之介より送り請所并建具〇〇〇等諸心覚	年月日未詳	横継紙	1通	山根氏より譲り受けた建物・建具等を書き立てたものか。	
80	〔池田政昭扶持米宛行状〕	安政4年8月	堅切紙	1通	(「政昭」印)→平山権六郎 2人扶持の給米を与えたもの。	包紙あり。(上書)「平山権六郎」
81	〔平山家系図〕	年月日未詳	横継紙	1通	平山藤兵衛より李之丞までの家系を示したもの。	紙継目がはがれ、分解している。
82	〔平山家先祖戒名等書付一括〕			1纏め(2枚)		82-1～2折り込み一括。
82-1	〔平山家先祖戒名・墓地書付〕	年月日未詳	横切紙	1枚	平山郷治夫妻ほかの没年月日・戒名・墓所の位置を示したもの。	「本是院理性法恕 寛文壬寅年八月二十四日」などと記された貼り紙が付されている。
82-2	〔平山家先祖戒名書付〕	年月日未詳	横継紙	1枚	平山郷治・李之丞ほか4名の戒名・没年月日を記したもの。	
83	〔池田政徳扶持米宛行状〕	文化14年3月	堅切紙	1通	(「政徳」印)→平山李之丞 2人扶持の給米を与えたもの。	包紙あり。(上書)「平山李之丞」

84	口上	(明治3カ)1月6日	横切紙	1通	平山五郎定雄(花押)→田中源造・安田孫七郎・木村定平 病気により近年難渋しているの、子息の郷夫に諸事名代勤を命じるようにしてほしいと申し出たもの。	
85	[氏未詳三郎左衛門消息]	(江戸初期)	縦紙	1通	宿所より「出羽方へ之状」(池田由成宛の書状)を遣わしたと、伏見で届けても構わないことを伝えたもの。	包紙として再利用か?
86	大坂五月七日之合戦の様子	(江戸初期)	縦紙	1通	「拙者」が大坂夏の陣天王寺口の戦いにおいて、「森豊前」(毛利勝永)の先手を勤め、大坂方として奮戦した様子を記したもの。	末尾欠損。
87	[大坂の陣覚書一括]			1纏め(2通)		87-1~2折り込み一括。
87-1	大坂夏御陣之時松原四郎兵衛手口覚	(寛永年間カ)	縦紙	1通	大野修理(治長)の配下で同家中の組頭三浦てき庵に属していた松原四郎兵衛が、「こんだの東堤」の合戦での活躍を書き留めたもの。	文中に「只今森内記様ニ須藤善左衛門と申罷有候」とあることより、年代を判断。
87-2	覚書	(江戸初期)	横継紙	1通	明石清左衛門。大坂夏の陣の時、長宗我部宮内少輔(盛親)の配下だった清左衛門が、河内国八尾表における藤堂和泉(高虎)衆との交戦の様子と自身の武功を書き留めたもの。	貼り紙・墨引による訂正あり。
88	[銀書付]	年月日未詳	横切紙	1枚	「銀札合八百八拾目 此札金ニして拾両ナリ」などがある。	
89	覚(銀預り証)	年未詳12月	横切紙	1通	かや代270目の預り証。	
90	[包紙]	年月日未詳		1枚		(上書)「御折紙箱入之分 用意金」などがある。
91	[藤戸寺・経ヶ島由来記]	年月日未詳	半・縦	1纏め	藤戸寺の末寺・岡山藩主池田氏による保護のありさま・藤戸合戦などについて記したもの。	もと冊子に仕立てられていたものの断簡。3丁分のみ残存。朱筆注記あり。
92	覚	年未詳9月29日	横切紙	1通	金1両を御祈禱料として出したことを記す。	
93	[平山権五郎宛池田政徳書状]	年未詳12月15日	横継紙	1通	今晚平山家へ向うことを大いに楽しみにしていることを伝え、茶事で用いる道具について意向を述べたもの。	(端裏上書)「平山権五郎殿 雲州 急用事」
94	地所異動御証明願	明治23年8月14日	縦紙	1通	児島郡藤戸村大字天城220番邸平山保雄→藤戸村長日笠哲夫 藤戸村大字天城字山下2305番ほかにつき、土地調査に伴う登記変更願提出のため、異動の証明を申請したもの。	助役藤田秀雄の奥書あり。
95	[土地丈量図]	年月日未詳		1枚	某所2307番地の隣接地の平面図。天城か?	94に関連するか。
96	[土地丈量図]	年月日未詳		1枚	場所未詳。	94に関連するか。
97	[包紙]	年月日未詳		1枚		(上書)「為取換議定書」
98	覚	安政7申年7月	横継紙	1通	安政4年以来「普請手当之心得」との名目で貯蓄してきた金の明細を記したものの。計3貫877匁4歩。	
99	御筆	年月日未詳	縦紙	1枚	「右九人烏三羽」として今枝氏以下9人の姓を記し、「反物小泉」「有合肴海野」などの記述あり。性格未詳。	
100	[平山家先祖戒名没年書付]	(明治14)年	横切紙	1枚	眼清院宗覚信士(平山藤兵衛)以下歴代一門の戒名・没年・執筆時点までの年数を記す。	一部の付紙が分離。
101	[散らし書消息]	年月日未詳	縦紙	1通	初春を慶賀する内容。	
102	[平山郷夫宛岡山県任免状一括]			1纏め(2通)		102-1~2折り込み一括。
102-1	[平山郷夫宛岡山県辞令]	明治8年1月8日	横切紙	1通	平山郷夫を二等選卒に任命したもの。	
102-2	[平山郷夫宛岡山県免許状]	明治12年8月4日	横切紙	1通	岡山県(印)→四等巡査平山郷夫 依願職務を許可したもの。	
103	金禄公債証券御買上願	明治12年12月20日	美・縦	1部	岡山県下備前国児島郡天城村士族平山郷夫・戸長井上信一郎→岡山県令高崎五六 将来田地を購入し農業を営みたいので、証券を買い上げてほしいと願ったもの。	児島郡長尾形巖彦の奥書、願書の内容を聞き届ける旨の岡山県書記官津田要の朱筆付紙あり。
104	[平山奎之丞宛某書状]	年未詳6月10日	横継紙	1通	ちょうど目利きの者が居合わせているので、信楽筒茶盆がどの程度の価値があるものなのか今一度確認したい、との話題を記す。	(端裏上書)「用事 平山奎之丞江口口披見」
105	先祖書上并御奉公書上	慶長19年~享和2年1月7日	美・縦	1冊	平山家が岡山藩に提出したと思われる先祖書・奉公書の案文か。所々に墨消訂正が認められる。	
106	[平山郷夫宛警察掛達]	明治8年6月19日	縦折紙	1通	警察掛(印)→二等選卒平山郷夫 22日より第15番選卒屯所に出張するよう命じたもの。	「岡山県」と柱書された罫紙を使用。封筒あり。(上書)「平山郷夫殿 警察掛」
107	[平山権五郎宛池田政徳書状]	年未詳9月27日	横継紙	1通	政徳の子峯之丞(政昭)付きの家臣だった貝原氏の後任の人選について相談したもの。	(端裏上書)「平山権五郎殿 池出雲」
108	取為換申確証之事	明治14年5月14日	縦紙	1通	天城村75番地星島豊次郎→平山郷夫 興除沖開墾地に関する契約破談、および和解について。以前の関係書類は全て反古とする旨、伝えたもの。	「証券界紙」と題する罫紙を使用。
109	[平山郷右衛門宛某書状]	年未詳5月7日	横切紙	1通	書上の趣について承知したこと、直に何かを渡すよう伝えたもの。	(端裏上書)「書下 郷右衛門へ」
110	地所売渡之証	明治19年5月21日	縦切紙	1通	売渡入山脇恒・証人江口蘭次→平山保雄 備前国児島郡天城村字山下の山林を売却し、代金3円3拾銭4厘を受け取る。	
111	[平山家先祖戒名等書付一括]			1纏め(2枚)		111-1~2折り込み一括。
111-1	覚	年月日未詳	横継紙	1枚	平山藤兵衛以降の系図を略記したもの。墓所の位置図らしき付紙を貼付している。	冒頭部分・付紙紙継目脱落。
111-2	[平山家一門戒名書付]	年月日未詳	横継紙	1枚	平山佐七子・藤左衛門娘・奎之丞妹などの戒名・没年月日を記したもの。	紙継目分解の恐れあり。
112	[平山家系図]	年月日未詳	縦紙	1枚	平山郷右衛門~奎之丞の系図。	脱落した付紙を折り込み。

113	[池田由孝書状ほか一括]			1纏め(2通1枚)		もと113-3の中に113-1~2折り込み一括。紐で一括りに変更。
113-1	[松原四郎右衛門ほか1名宛池田由孝書状]	年未詳6月14日	横切紙	1通	(池田由孝花押)→松原四郎右衛門・布施三益 栄寿院殿の腹痛がやわらいだとの報せを受け、見舞いの使者に関する指示を与えたもの。	(端裏上書)「松原四郎右衛門殿・布施三益殿 主水」。栄寿院は由孝の母。
113-2	[田畑宅地反別地価書付]	年月日未詳	横切紙	1枚	字山下282番ほかの面積・地価を記す。	
113-3	[茶道具書付]	年月日未詳	横切紙	1通	黒楽茶碗の極め書を裏流千家虚白齋に依頼したい、などと記す。	(端裏書)「御筆」。天城池田家当主自筆の意か。
114	[履歴書ほか一括]			1纏め(2枚)		114-1の中に114-2が入り込んでいた。
114-1	[包紙]	年月日未詳		1枚		(上書)「明治十六年八月三十日 今村宅地買取二付地券御書換願書并地券口」などがある。
114-2	[法解院様御奉公の履歴]	年月日未詳	横切紙	1枚	勝男(平山氏)の画が「種彦」に認められたことなどを記す。	
115	[平山郷右衛門宛某書状]	年未詳5月11日	横切紙	1通	小納戸繕番に出向くことについて。	(端裏上書)「用事 郷右衛門江」。
116	[松原四郎右衛門ほか一名宛池田由孝書状]	年未詳8月25日	横継紙	1通	(池田由孝花押) 高樹院殿が熱病になり、病後は食事のままならないことについて。	(切封端裏上書)「松原四郎右衛門殿・布施三益殿 主水」。切封宛存につき、丁寧に取扱ったこと。
117	[平山権五郎宛丸川源右衛門書状]	年未詳7月17日	横継紙	1通	丸川源右衛門口口(花押)→平権五郎 村に貸し付けていた米の運用についてやり取りしたものか。「両村利分」および「掛出金四拾両之内式拾両」を指し上げる、などがある。	包紙あり。(上書)「平権五郎様 丸川源右衛門」。文中に「権六郎様」がみえることから、この書状の平山権五郎は定雄(権六郎の父)に該当する。24と関連するか。
118	還禄資本金記書	年未詳10月29日		1通	岡山県出納課→平山郷夫 家禄18石から奉還分を差し引いた石数を金員に換算した額などを示す。	罫紙。(柱書)「岡山県」。
119	[池田章政書状]	(明治4)年	横継紙	1通	先般知藩事を免じられ王侯に勤めることになったことを受け、餞別として目録の通り寸志を贈って謝意を示したもの。	写しか。
120	[平山郷右衛門宛黒崎武右衛門ほか1名連署書状]	年未詳12月27日	横切紙	1通	黒崎武右衛門・土肥原五郎介→平山郷右衛門 当季御残銀を預けることを了承し、証文を認め差し出す旨伝えたもの。	略封部分がはがれて分離。No.122・124に関連。
121	覚(金子払上証)	卯年8月16日	横継紙	1通	林村名主先右衛門→平山権五郎 先に預った金子30両を元利とも返済するので受け取るよう伝えたもの。	紙継目分解。
122	[平山郷右衛門宛黒崎武右衛門ほか1名連署書状]	年未詳12月28日	横切紙	1通	黒崎武右衛門・土肥原五郎介→平山郷右衛門 金子20両の受け取り状。	No.120・124に関連。
123	[平山家先祖書付類一括]			1纏め(2枚)		123-1の中に123-2が包み込まれている。
123-1	覚(平山藤兵衛伝記)	年月日未詳	横切紙	1枚	平山藤兵衛が知人を頼って西国に下り、天城池田氏に召し抱えられるまでの経緯を記したもの。	123-2の包紙のような形態で利用されている。
123-2	[平山家略系および戒名没年書付]	年月日未詳	横継紙	1枚	眼清院宗覚信士(平山藤兵衛)以下歴代係累の戒名・没年月日などを記したものの。	
124	[土肥原五郎介ほか1名宛平山郷右衛門書状案]	(慶応1)丑年12月	横継紙	1通	平山郷右衛門→土肥原五郎介・黒崎武右衛門 御蔵奉行へ差し出した書状の案文。米価高値により少々払残銀が出来たので、御振替金として運用したいと相談をもちかけたもの。	No.120・122に関連。
125	[平山氏宛書状・辞令ほか一括]			1包(1通1括り)		125-1~2包紙入り一括。(包紙上書)「御折紙箱江貯置之様也安政四己年已来普請入用手充金之心得を以除置候分申年普請二取出て書付反古なから取置候、委細者普請留帳二留口口」
125-1	[平山奎之丞宛某書状]	年未詳5月4日	横継紙	1通	千馬喜兵衛が出かける前に振舞を供するつもりだったが、故障が多く延引して最早余日もなくなったので、奎之丞から委細を申し伝えるよう依頼したもの。	(端裏上書)「口用事 平山奎之丞江」 もとは125-2-1によって125-2-2~3が包まれていた。紐で一括する体裁に変更した。
125-2	[平山郷夫宛岡山県辞令ほか一括]					
125-2-1	[平山郷夫宛岡山県辞令]	明治10年1月26日	横切紙	1通	平山郷夫を四等巡査に任命し、その月俸金を示したもの。	
125-2-2	[平山郷夫宛岡山県辞令]	明治8年7月22日	横切紙	1通	平山郷夫を一等選卒に任命したもの。	
125-2-3	[平山郷夫宛岡山県賞状]	明治11年6月29日	横切紙	1通	岡山県(印)→四等巡査平山郷夫 職務勤勉を賞し、金1円33銭を下賜する旨伝えたもの。	
126	[池田成方知行宛行状]	延宝5年1月15日	横折紙	1通	主水成方(花押)→平山徳右衛門 備前国児島郡林村・赤崎村・備中国窪屋郡福島村の内にて知行350石を与えたもの。	「成方」は池田由孝の初名。包紙あり。(上書)「平山徳右衛門とのへ」
127	[某書状]	年月日未詳	堅切紙	1通	「御屋舗様」の伏見駅止宿などにつき記す。冒頭に「佐藤五郎右衛門ト平山奎之丞より大要用文面」とある。	(端裏書)「御筆」。
128	[平山奎之丞宛某書状]	年未詳2月14日	横継紙	1通	明日の登城廻勤に連れ立つ供の者の人選などを伝えたもの。	(端裏上書)「用事 平山奎之丞江」
129	[池田政喬扶持米宛行状]	天明8年1月	堅切紙	1通	(「政喬」印)→平山民治 10人扶持の給米を与えたもの。	包紙あり。(上書)「平山民治」
130	[包紙]	年月日未詳		1枚		(上書)「平山権五郎江 池雲州」。
131	[池田政和扶持米宛行状]	慶応1年10月	堅切紙	1通	(「政和」印)→平山権六郎 2人扶持の給米を与えたもの。	包紙あり。(上書)「平山権六郎」。
132	京廻り大津駅御供	年月日未詳	横折紙	1通	京都・伏見・大津方面に供として召し連れた人物(平山奎之丞ほか)を列記したもの。	「御筆」とある。 (端裏上書)「用事 平山奎之丞江」。内容と宛人の没年から奎之丞の父池田政徳の書状と推定。
133	[平山奎之丞宛池田政徳書状]	年未詳8月24日	横継紙	1通	本日の奎之丞(池田政昭)の祝儀に満足していることなどを伝えたもの。	

134	馬組	年未詳5月20日	横継紙	1通	1番から6番まで、馬および騎主の組み合わせを作って列記する。「吉番 市鹿毛安治・万歳治三郎」など。	包紙あり。(上書)「御筆馬組乗馬之次第」。「考候へハ承可申事」と記された付紙が入っている。
135	口上	(明治3カ)2月3日	縦紙	1通	平山五郎定雄(花押)→田中源造・安田孫七郎・木村定平 疝症にて御城御番などを勤め難くなったので、以後は悴の郷夫に諸事名代勤を命じるようにしてほしい、と依頼したもの。	(端裏書)「御付紙之通相添来候間、為御礼政事御帳江御印口可被成候 以上」(端裏朱書)「大番差配役」。
136	覚	年未詳1月11日	横切紙	1通	(差出人欠)→平山権五郎 勤務出精につき、毎年会釈札銀20枚を加増する旨伝えたもの。	包紙あり。(上書)「書附」。
137	[池田政徳扶持米宛行状]	文化15年1月	縦切紙	1通	(「政徳」印)→平山奎之丞 3人扶持の給米を与えたもの。	包紙あり。(上書)「平山奎之丞」。
138	覚(家伝文書目録)	辰年12月	横切紙	1通	平山家伝来の古文書の目録。御折紙19通・御黒印5通など。	冒頭部破損大。
139	覚(金子書付)	年未詳12月1日	横切紙	1枚	金2歩(折紙入之分)の書付。	
140	返済証書	明治21年11月28日	縦折紙	1通	備前国児島郡天城村42番邸債主朽木忠治郎→同村220番邸平山保雄 貸し付けていた金額の払込を確認し、無事落手したことを証したもの。	年月日の上に訂正のため貼付されていた紙が脱落。
141	[試し書き]	年月日未詳	横切紙	1通	「源内」「藤左衛門」「伺」などの字が無雑作に書き付けられている。	もとは「口上」と題する文書の断簡カ。
142	蛇鱗乃由来	文政2年4月9日	横継紙	1通	天城俳員潤亭一瓢居士。大槌島より出現し、児島郡日比村の加地藤右衛門によって射殺された大蛇と、その鱗の由来を記したもの。	142・143は、平山家文書を一括収納していたカバンの内ポケットへ収められ、他の文書とは分けてあった。
143	蛇鱗	年月日未詳		1枚	143で由来が説明されている大蛇の鱗の実物。包紙の中に1枚入っている。	142と一緒に平山家文書を一括収納していたカバンの内ポケットへ収められていた。
144	御歴代之伝記	弘化3年10月	半・縦	1冊	平山貞雄(筆写) 池田之助から由孝までの天城池田氏当主の伝記と、関連する資料を記録したもの。	
145	訂正国史略	慶応1年11月		1纏め(2冊)	従五位下行大舎人助兼音博士源朝臣松苗(編)、従五位下行大舎人少允菊苗ほか1名(改訂)、正五位下駿河守鴨巣主周昭(校)。京都書林御幸町御池南菱屋孫兵衛(版刻)。	巻之四・五のみ。文政9年成立本の第3版。
145-1	訂正国史略 四	慶応1年11月	小・縦半	1冊	後堀河天皇～後奈良天皇の時代の通史を記す。	(柱書)「校正三刻 国史略 巻之四 五車楼梓」
145-2	訂正国史略 五	慶応1年11月	小・縦半	1冊	正親町天皇～後陽成天皇の時代の通史を記す。	(柱書)「校正三刻 国史略 巻之五 五車楼梓」
146	靖献遺言	明治2年5月		1纏め(3冊)	浅見安正(編) 京師二条衣棚風月堂庄左衛門ほか(発行書林)	巻1～8全巻揃い。慶応3年成立本の再版。
146-1	靖献遺言 一至四	明治2年5月	小・縦半	1冊	屈平・諸葛亮・陶潜・顔真卿の伝および詩文を載せる。	表紙・裏表紙とも和紙で覆ってある。
146-2	靖献遺言 五六	明治2年5月	小・縦半	1冊	文天祥・謝枋得の伝および詩文を載せる。	表紙・裏表紙とも和紙で覆ってある。
146-3	靖献遺言 七八止	明治2年5月	小・縦半	1冊	劉因・方孝孺の伝と詩文、跋文を載せる。	表紙・裏表紙とも和紙で覆ってある。
147	山陽遺稿	天保12年5月		1纏め(8冊)	頼囊子成(山陽)(著)、篠崎彌(巻頭言)、大阪心齋橋通北久太郎町河内屋喜兵衛ほか(発行書肆)	文一～五、詩一～三全巻揃い。内題「山陽文詩遺稿」、柱書に「山陽先生遺稿」。
147-1	山陽遺稿 文一	天保12年5月	半・縦	1冊	巻頭序・目録および巻之一書(答古賀溥卿書ほか)・巻之二論(陳平周勃論ほか)を収載。	
147-2	山陽遺稿 文二	天保12年5月	半・縦	1冊	巻之三伝(節女阿正伝ほか)および巻之四碑(北村孟溟墓碣ほか)を収載。	
147-3	山陽遺稿 文三	天保12年5月	半・縦	1冊	巻之五記(菅公画像記ほか)・巻之六記(理〇記ほか)を収載。	
147-4	山陽遺稿 文四	天保12年5月	半・縦	1冊	巻之七記(耶馬溪図巻記ほか)・巻之八序(送大原雲卿東行序ほか)を収載。	
147-5	山陽遺稿 文五	天保12年5月	半・縦	1冊	巻之九序(近世叢語序ほか)・巻之十序(続米庵炭談序ほか)を収載。	
147-6	山陽遺稿 詩一	天保12年5月	半・縦	1冊	巻之一丙戌・巻之二丁亥を収載。	
147-7	山陽遺稿 詩二	天保12年5月	半・縦	1冊	巻之三戊子・巻之四己丑を収載。	
147-8	山陽遺稿 詩三	天保12年5月	半・縦	1冊	巻之五丙寅・巻之六辛卯・巻之七壬辰・拾遺・山陽先生行状を収載。	
148	平和記念東京博覧会	大正11年4月		1冊	東京市日本橋区箱崎町2丁目7番地池田竹三(編)、同市京橋区中橋和泉町4番地東京博覧会写真帖発行所(発行)。内題「平和記念東京博覧会写真帖」。	
149	英名録	文久2年3月	美・横切半折	1冊	東備藩八部昌武(序)。武芸者の門人帳か。一刀流八部十郎左衛門(昌武)門人の平山権六郎が試合・面会した人々の名が列記されている。	一部に汚損あり。帙に入れられているが、帙自体も破損。
150	詩工錐鑿再刻	天保13年	半・横切半折	1冊	元軌伯則(著)、岡崎盧門(序・関)、京撰書林(合梓)。	天明2年成立本の第3版。上巻のみ。
151	下懸囃謡大成	享和1年9月	半・横切半折	1冊	内題「新改正下懸囃謡」。千鐘房主人(編か)、京都越後屋太郎右衛門ほか(新刻)。	
152	六雄八将論上	年月日未詳	半・縦	1冊	青山延光(著)。上杉謙信ほか6人の英雄の評伝。	上巻のみ。
153	和歌題林愚抄春	年月日未詳	半・縦	1冊	「立春」「子日松」などの歌題に合う和歌の実例を示したもの。	春の部のみ。
154	月菴和尚法語	正保3年	美・縦	1冊	三条通菱屋町口屋林甚右衛門(編か)。	表紙の題箋欠損。痛みが大きい。